

# 鳥井原遺跡

—玉名市立願寺字鳥井原における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2021

玉名市教育委員会

## 序

玉名市は、熊本県北西部の菊池川下流域に位置し、旧石器時代からの長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線を軸に県北部の経済・観光ならびに教育・文化の拠点として更なる発展を遂げようとしています。

このような中で、玉名市教育委員会では、様々な開発事業と発掘調査の円滑な調整のため、埋蔵文化財行政の充実に努めているところです。また、その成果の公開および活用を通じて広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、共同住宅建設に伴い実施した玉名市立願寺字鳥井原に所在する鳥井原遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が、文化財に対する理解の一助となり、また学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたりましては、各方面で多くの方々に多大なご理解とご協力を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

令和3年3月12日

玉名市教育委員会

教育長 福島 和義

## 例　言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和元年度に実施した熊本県玉名市立願寺字鳥井原に所在する鳥井原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、玉名市教育委員会が実施し、田熊秀幸が担当した。
3. 現地調査における遺構実測および写真撮影は、田熊が行った。
4. 掘図に記載している座標値は、玉名市役所税務課の地籍図等から転記し、世界測地系第II座標系に基づいている。
5. 出土遺物の実測は、田熊、董父雅史が行い、北嶋百合子、藤井めい子の協力を得た。
6. 整理作業は、玉名市文化財整理室を行った。
7. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
8. 本書の執筆は、田熊が行い、編集は、中村安宏が担当した。

## 本文目次

### I. はじめに

1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の計画と実施	1
3. 調査の体制	2

### II. 位置と環境

1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3

### III. 調査の記録

1. 基本層序	4
2. 検出遺構	6
3. 出土遺物	9

### IV. 総括

13

## 挿図目次

第1図	鳥井原遺跡調査地位置図 (S=1/5,000)	第7図	S 4 実測図 (S=1/60)
第2図	Ⅲ区南北壁土層断面図 (S=1/60)	第8図	S 5 実測図 (S=1/60)
第3図	遺構配置図 (S=1/400)	第9図	S 1・S 2 出土遺物実測図 (S=1/4)
第4図	S 1 実測図 (S=1/60)	第10図	S 2 出土遺物実測図 (S=1/4)
第5図	S 2 実測図 (S=1/60)	第11図	S 2・S 3・S 4・包含層出土遺物実測図 (S=1/4)
第6図	S 3 実測図 (S=1/60)		

## 表目次

第1表	鳥井原遺跡出土遺物観察表 [土器]	第3表	鳥井原遺跡出土遺物観察表 [石器]
第2表	鳥井原遺跡出土遺物観察表 [土製品]	第4表	鳥井原遺跡出土遺物観察表 [石製品]

## 図版目次

図版 1	Ⅱ区完掘状況 (南東から)	図版 5	S1 出土土器
	Ⅳ区完掘状況 (南東から)		S2 出土土器 1
	Ⅲ区完掘状況 (南東から)	図版 6	S2 出土土器 2
図版 2	Ⅲ区完掘状況 (北から)		S2 出土土器 3
	Ⅲ区 S 2 完掘状況 (北東から)	図版 7	S4 出土土器
図版 3	Ⅲ区 S 2 一括遺物出土状況 (東から)		包含層出土土器
	V区完掘状況 (南東から)		土器以外の出土遺物 1
	V区 S 1 検出状況 (南東から)		土器以外の出土遺物 2
図版 4	V区 S 1 遺物出土状況 (東から)		
	VII区完掘状況 (南東から)		
	VIII区 S 5 完掘状況 (南東から)		

## I. はじめに

### 1. 調査に至る経緯

本調査は、熊本県玉名市立願寺字鳥井原 257 番 1において共同住宅建設が計画されたことに起因する。建設計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「鳥井原遺跡」の範囲内に所在していたため、平成 30 年 10 月 3 日から 11 日（第 1 次）および平成 31 年 3 月 18 日から 20 日（第 2 次）にかけて確認調査を実施した。その結果、計画地の全域にわたって、弥生時代中期の竪穴建物跡および柱穴群が確認された<sup>1)</sup>。遺構が確認された範囲は、造成によって掘削が予定されており、協議の結果、計画変更が不可能であったため、地下遺構が損壊される範囲（227m<sup>2</sup>）を対象として発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行うこととなった。

註

- 1) 豊父雅史 田熊秀幸 2020「9 鳥井原遺跡」『玉名市内遺跡調査報告書 12』玉名市文化財調査報告第 46 集  
玉名市教育委員会

### 2. 調査の計画と実施

事業主体者は、文化財保護法第 93 条第 1 項の規定に基づき、平成 31 年 4 月 15 日付けで埋蔵文化財発掘の届出を行い、熊本県教育長から工事施工に先立ち発掘調査を実施すべき旨の通知がなされた（平成 31 年 4 月 19 日付け教文第 123 号）。その後、平成 31 年 4 月 23 日付けで事業主体者と玉名市教育委員会との間で埋蔵文化財発掘調査にかかる協定および委託契約を締結した。

現地での調査は、表土から調査対象となる遺構検出面までの掘削を重機掘削とし、それ以下の包含層掘削、遺構検出および掘削作業ならびに記録作業は人力によって行った。遺構分布状況、土層堆積状況および個別遺構記録については、実測図面の作成ならびに写真撮影による記録を行った。

重機による表土掘削は、令和元年 5 月 8 日から開始し、5 月 13 日からは発掘作業員による人力掘削作業に入った。調査対象地全体を I～IX 区に分け、最も面積の大きい III 区から遺構検出を行い、同日から S2（竪穴建物）の掘削を開始した。III 区の調査は 5 月 23 日に終了し、順次 I から IX 区の擁壁予定部分の遺構検出および埋土掘削を行い、6 月 3 日に全ての遺構を完掘し、完掘状況写真を撮影した後、現地での作業を終了した。その後、令和 2 年 5 月 19 日付けで報告書作成に関する委託契約を締結し、令和 3 年 3 月 12 日に報告書作成を完了した。



表土掘削状況



遺構検出状況

### 3. 調査の体制

発掘作業・整理作業および報告書作成は、下記の体制により実施した。

#### 発掘作業（令和元年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一

調査総括 教育部長 西村則義

文化課長 松田智文

文化課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 蟹父雅史（確認調査）

技術主任 田熊秀幸（確認調査・発掘調査）

発掘調査員 主査 蟹父雅史（確認調査）

技術主任 田熊秀幸（確認調査・発掘調査）

発掘作業員 緒方雄二 北嶋百合子 嶋村倫子 住友須美子 前川直美 吉川ゆかり

整理担当 技術主任 田熊秀幸（原稿執筆）

#### 報告書作成（令和2年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一（令和2年12月3日まで）

教育長 福島和義（令和2年12月4日から）

調査総括 教育部長 西村則義

文化課長 伊藤恵浩

文化課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 中村安宏

編集担当 主査 中村安宏

## II. 位置と環境

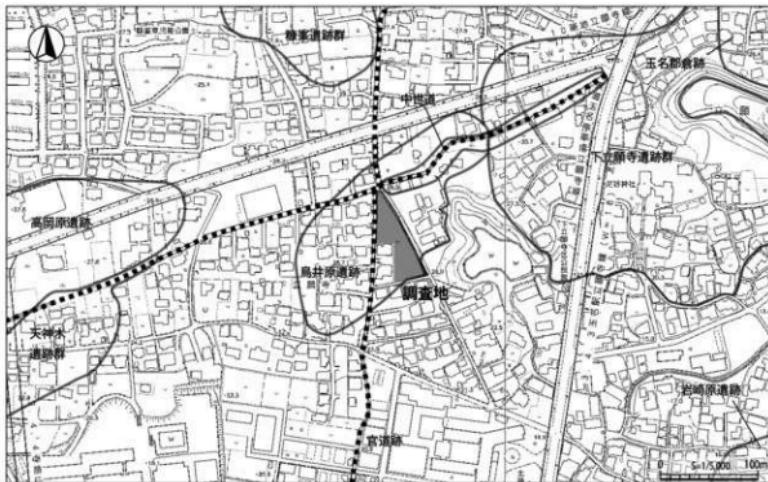
### 1. 地理的環境

鳥井原遺跡は、玉名市立願寺に所在する遺跡であり、筒ヶ岳を主峰とする小倍山地から南へ延びた低丘陵上にあたる。この低丘陵は「玉名台地」と呼ばれ、中生代の花崗岩隆起運動およびASO4火碎流によって形成されたのち、約1万8千年前の海退現象によって開拓され、約6千年前の海進に伴う土砂堆積を経て今日の形となったものである。

調査対象地は、玉名台地上の標高約30mの地点に位置しており、鳥井原遺跡範囲の中央部にあたる（第1図）。かつては畠として利用されていたが、その後、耕作が放棄され、現状は雑草が繁茂する荒蕪地となっている。

### 2. 歴史的環境

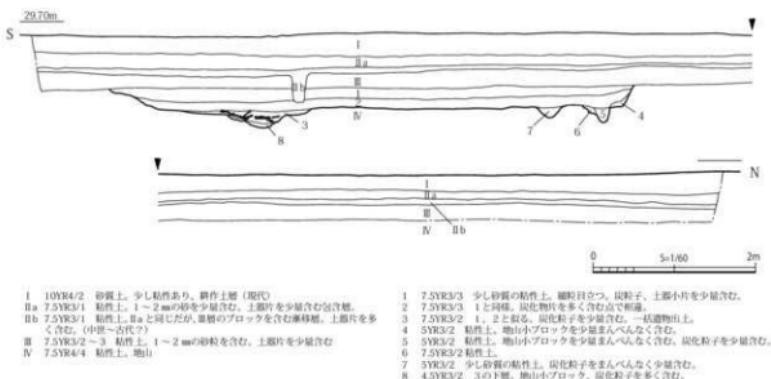
玉名台地上では、弥生時代を通して継続的に集落が営まれており、弥生時代中期から後期の遺物を伴う竪穴建物跡が多数確認されている。特に台地東側に所在する高岡原遺跡からは、鐵器や青銅器を有する弥生時代後期の竪穴建物跡群が確認されており、当地における拠点的集落であったと想定される。古代には、立願寺に玉名郡衙が造営され日置氏による支配が始まる。それと同時に郡衙周辺の交通網も整備され、鳥井原遺跡を南北に縦断する官道跡が今に遺されている。中世には、在地勢力の大野氏支配のもと、玉名台地上に城館が建てられ、集落の形成も進んだ。この頃、立願寺から築地方面へ横断する中世道が造られており、人々の往来も盛んであったと考えられる。鳥井原遺跡は、これら古代官道跡と中世道の交差する場所に位置しており、重要な交通拠点であった（第1図）。近世以降、当地は手永制のもと、立願寺村として坂下手永に編入される。その後、明治22年の町村制を経て、昭和29年に玉名市へ編入され現在に至る。



第1図 烏井原遺跡調査地位置図 (S=1/5,000)

### III. 調査の記録

#### 1. 基本層序

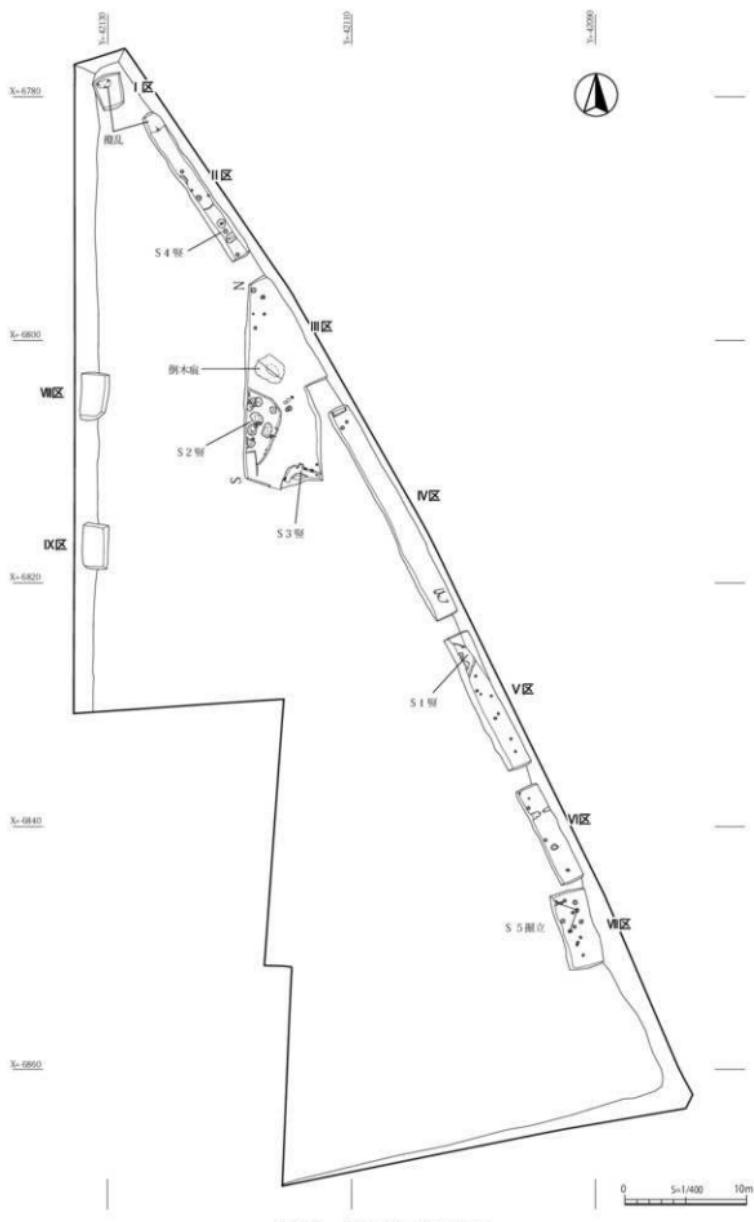


第2図 III区南北壁土層断面図 (S=1/60)



調査前全景 (南東から)

III. 調査の記録

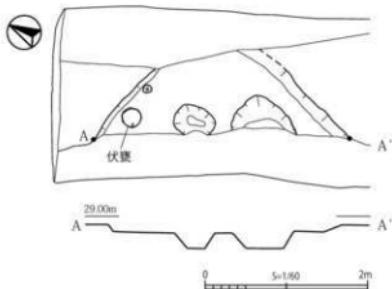


## 2. 検出遺構

### 竪穴建物跡

#### S 1 (弥生時代中期)

V区北端で検出した竪穴建物跡である。全体プランは不明であるが、確認された範囲から復元される形状は丸隅方形である。東側隣接道路の掘削によって、遺構の一部が破壊されているほか、耕作によって遺構上面が著しく攪乱を受けている。遺構残存深度は、最深部で7.6cmである。床面直上からは、黒髮式土器が倒立した状態で出土しており、埋土の状況から底部を打ち欠いた上で置かれた伏甕とみられる。転用支脚あるいは住居内埋葬に関わるものと考えられるが、土器中の埋土からはその痕跡は認められなかった。



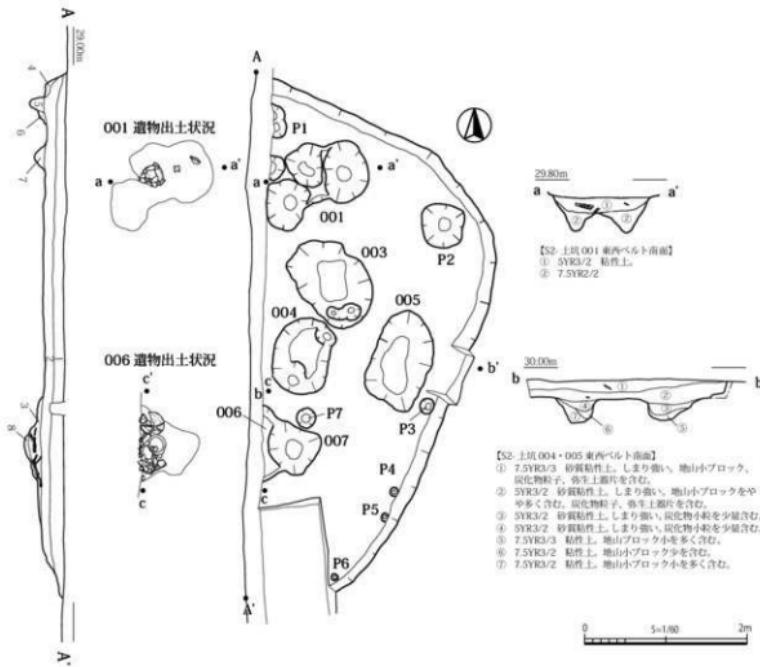
第4図 S 1 実測図 (S=1/60)

#### S 2 (弥生時代中期)

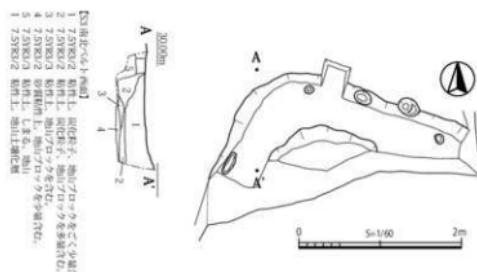
III区南西端において検出した竪穴建物跡である。検出された範囲から想定されるプランは、長辺6.5m、短辺3.2m以上の楕円形である。主柱穴とみられる柱穴は1基であり、対応する柱穴は、調査区外に存在するとみられる。遺構の深度は25cmであり、今回検出された竪穴建物跡群の中では最も遺存状態が良い。埋土中に黒髮式土器片が混入していたほか、床面直上からも同時期遺物の一括出土が認められた。また、床面から7基の住居内土坑を掘り込んでおり、土坑001および006から甕、壺、高坏が出土した。いずれも弥生時代中期中葉に属す黒髮式土器である。土坑006から出土した土器群は一括遺物であり、赤彩された高坏と壺が一括出土している状況から住居廃絶儀礼に関連したものであると考えられる。

#### S 3 (弥生時代中期)

III区南東端において検出した竪穴建物跡である。建物跡の一部を検出したのみであり、全体のプランは不明であるが、S 2 竪穴建物跡と並列しており、存続時期もほぼ同時期とみられることから、楕円形のプランであると推測される。床の周縁部には壁際溝を有する。遺構埋土からは黒髮式土器が出土しており、他の竪穴建物跡と同時期の遺構である。また、床面直上からは、姫島産黒曜石製と考えられる打製石鐵が1点出土したほか、剥片が少量出土した。



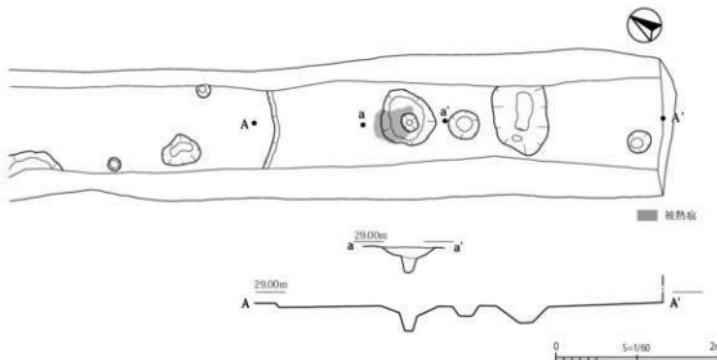
第5図 S2 実測図 (S=1/60)



第6図 S3 実測図 (S=1/60)

## S 4 (弥生時代中期)

II区の南東端において検出した竪穴建物跡である。検出範囲が狭小であったため、全体プランを確認できなかったが、確認された範囲では、一辺が最低4.8m以上と推定される。主軸方向は不明であり、遺構の残存深度も耕作に伴う擾乱によって4.7cmと浅い。床面直上からは、黒髮式土器の甕、鉢などの小片が散乱した状態で出土しており、廃絶時期は弥生時代中期中葉以降と考えられる。床面中央やや北寄りには焼土塊が分布しており、焼土下の土坑に炭化物片の混入と被熱痕が認められることから炉跡と推定される。

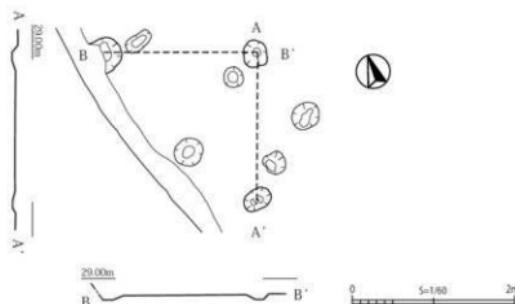


第7図 S4 実測図 (S=1/60)

## 掘立柱建物跡

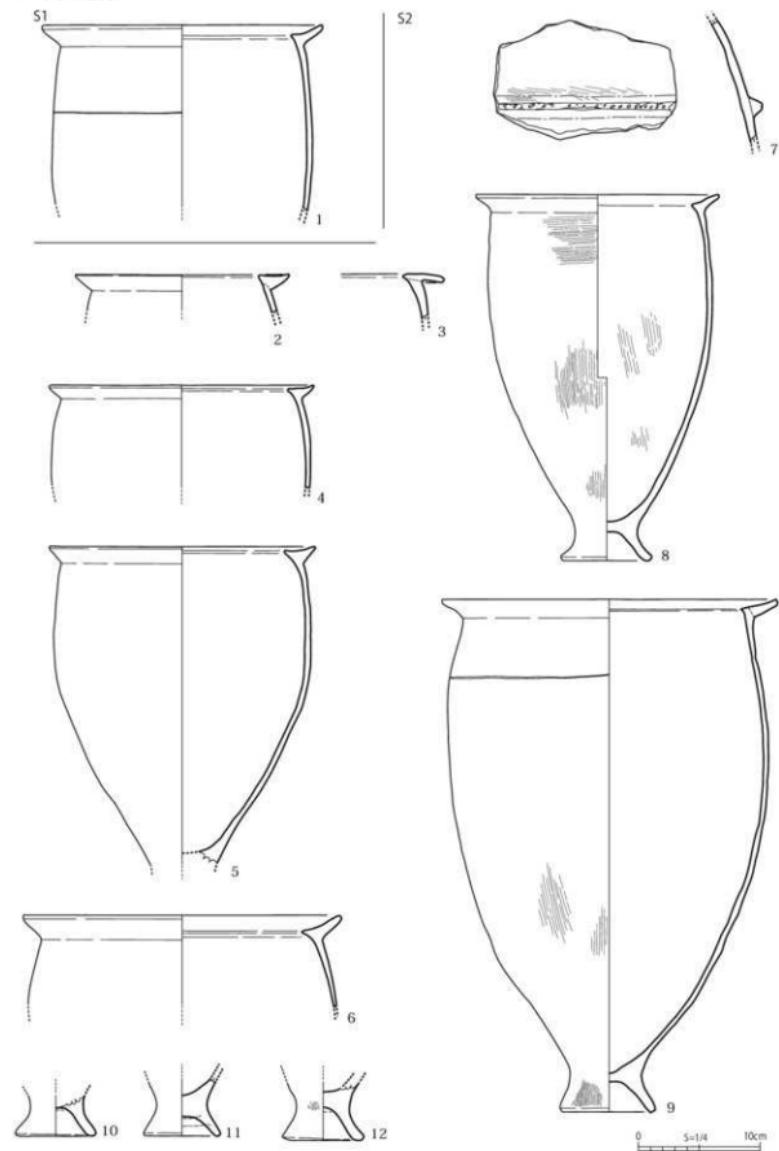
## S 5

VII区で確認された3基の柱穴から復元される掘立柱建物跡である。柱穴の深度は検出面から10cm前後で浅く、柱間はいずれも180cm（一間）である。主軸は、ほぼ南北軸線上に乗っており、調査区西側を南北に縦断する官道跡に並行するプランである。柱穴からの出土遺物が僅少であるため、遺構の時期特定が困難であるが、官道跡と並行することや周辺遺跡の遺構検出状況などからみて古代の掘立柱建物跡と考えられる。

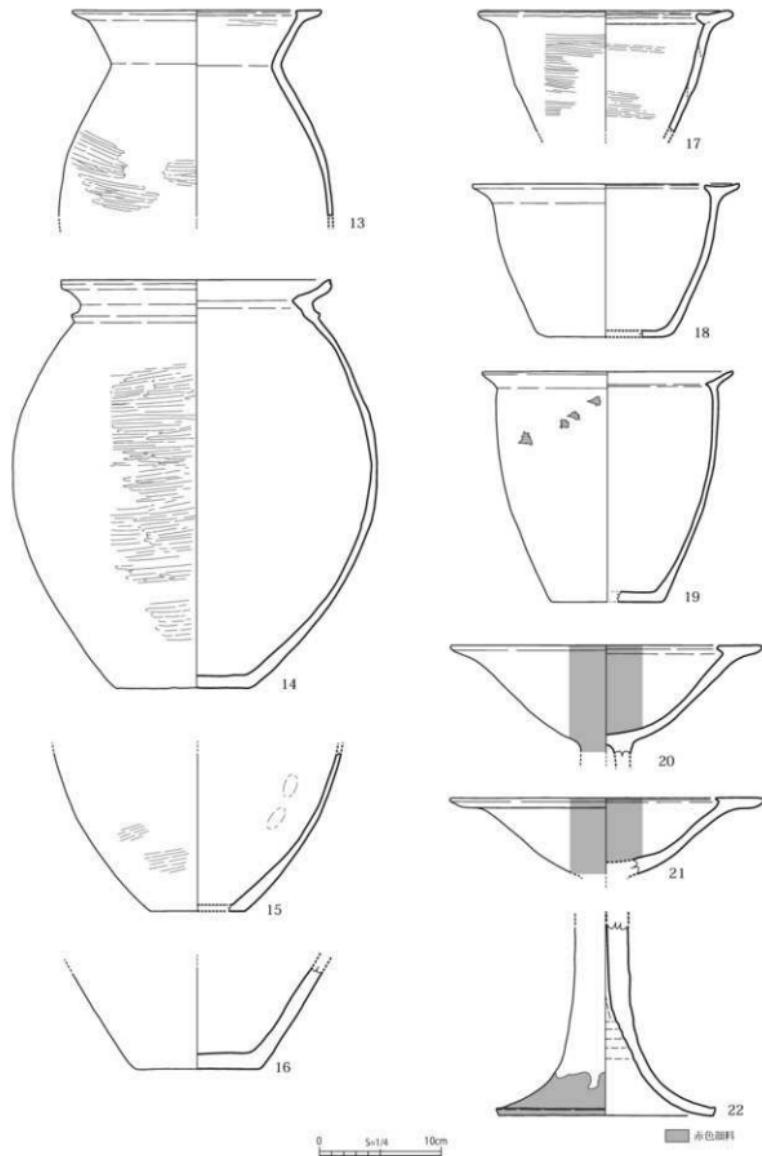


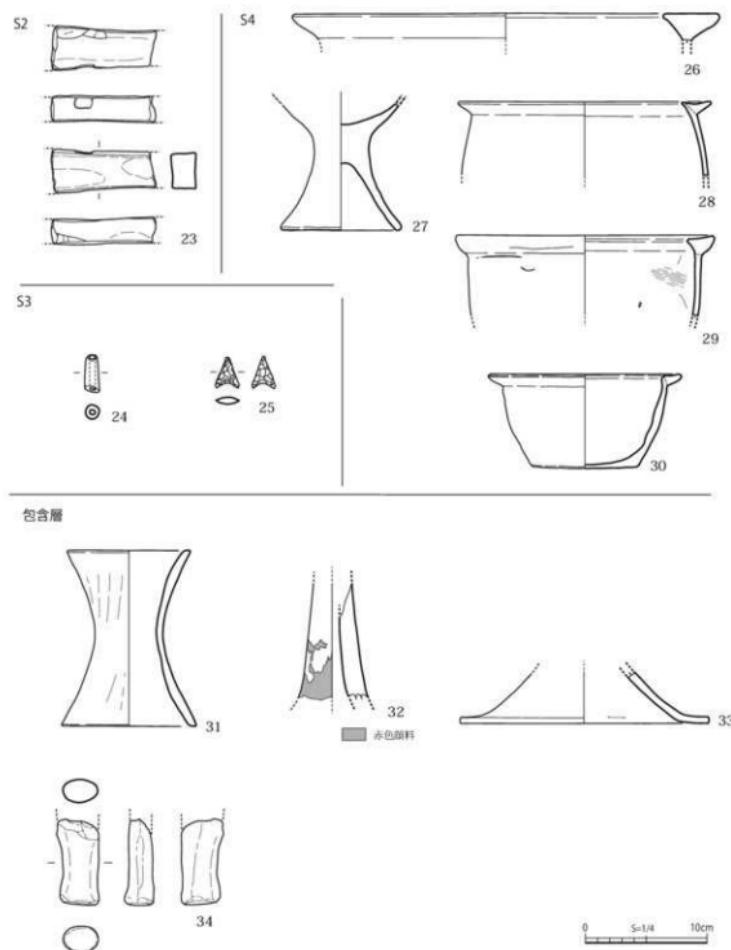
第8図 S5 実測図 (S=1/60)

3. 出土遺物



第9図 S1・S2出土遺物実測図 (S=1/4)

第10図 S2出土遺物実測図 ( $S=1/4$ )



第11図 S2・S3・S4・包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

第1表 烏井原跡出土遺物観察表 [土器]

調査番号	出土地点	埋理	法面 (cm)			調整		色調		地上	備考	
			上部	底付	西底	外面	内面	外面	内面			
第9回 1	V区	S 1	直	23.0	-	15.3 (残存)	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR6/6)	明黄褐色 (10YR6/6)	2mm以下の石灰や多量 2mm以下の長石や少量 1mm以下の角閃石や少量	
第9回 2	III区	S 2	直	17.6 (復元)	-	3.2 (残存)	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR5/6)	明黄褐色 (10YR5/6)	2mm以下の石灰や多量 2mm以下の長石や少量 1mm以下の角閃石や少量	
第9回 3	III区	S 2	直	-	-	3.7 (残存)	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR7/8)	黄褐色 (10YR7/8)	3mm以下の石灰や少量 1mm以下の長石や少量	
第9回 4	III区	S 2	直	21.6 (復元)	-	8.5 (残存)	ナデ?	ナデ?	明黄褐色 (10YR5/6)	褐色 (7.5YR7/6)	4mm以下の石灰や少量多量 3mm以下の長石や多量 角閃石や少量	
第9回 5	III区	S 2	直	22.0	-	26.0	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-褐色 (10YR7/4)	2mm以下の石灰や少量 1mm以下の長石や少量	
第9回 6	III区	S 2	直	26.0 (復元)	-	7.5 (残存)	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	1mm以下の石灰や少量 0.5mm以下の石灰や多量	
第9回 7	III区	S 2	直?	-	-	9.7 (残存)	ハケ後ナデ	ハケ	明黄褐色 (10YR6/6)	黄褐色 (10YR8/6)	5mm以下の石灰や少量多量 2mm以下の長石や少量	
第9回 8	III区	S 2	直	20.0	7.6	30.1	ハケ ナデ	ハケ ナデ	黄褐色 (10YR7/8)	黄褐色 (10YR7/8)	長石 角閃石	
第9回 9	III区	S 2	直	27.7	7.7	42.2	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR8/6)	にごく-褐色 (7.5YR7/4)	3mm以下の石灰 白色砂利、漂白含む	
第9回 10	III区	S 2	直	-	6.6	3.4 (残存)	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	黒褐色 (7.5YR7/2)	1~2mm以下の石灰や少量 多量 細胞な角閃石含む	
第9回 11	III区	S 2	直	-	6.6	4.7 (残存)	ナデ	ナデ	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR6/6)	1mm以下の長石や少量多量 1mm以下の角閃石や少量	
第9回 12	III区	S 2	直	-	6.7	4.8 (残存)	ハケ後ナデ	ナデ	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	1mm以下の長石や少量多量 1mm以下の角閃石や少量	
第10回 13	III区	S 2	直	20.6 (復元)	-	17.0 (残存)	ナデ 腰部分一部 ミリキ 刀身	ナデ 一部ハケ	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-褐色 (10YR7/4)	1mm以下の石灰や少量 3mm以下の石灰や少量	
第10回 14	III区	S 2	直	22.0	11.0	33.0	ミガキ	ナデ	褐色 (5YR6/8)	褐色 (5YR6/8)	3mm以下の石灰 白色、黑色砂利含む	
第10回 15	III区	S 2	跡 or 直	-	7.8 (復元)	13.0 (残存)	ナデ・ハケ後 脂油汎染	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-黃褐色 (10YR7/4)	1mm以下の石灰少量 1mm以下白色砂利や多量	
第10回 16	III区	S 2	直?	-	10.6	8.6 (残存)	ナデ	ナデ	褐色 (5YR6/6)	褐色 (5YR6/6)	1mm以下の石灰少量 1mm以下の長石少量	
第10回 17	III区	S 2	跡	21.0	-	10.0 (残存)	ヘラスギキ 1脚部ナデ	ヘラスギキ 1脚部ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-褐色 (7.5YR7/4)	1mm以下の石灰少量 1mm以下の長石少量 細胞状の角閃石少量	
第10回 18	III区	S 2	跡	21.9	11.0	12.6	ナデ	ナデ	黄褐色 (7.5YR5/6)	にごく-黄褐色 (10YR5/4)	2mm以下の石灰や少量多量 1mm以下の長石少量 1mm以下の角閃石少量	
第10回 19	III区	S 2	跡	20.6	9.0	19.0	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	1mm以下の石灰少量 1mm以下の長石少量 1mm以下の角閃石少量	
第10回 20	III区	S 2	高环	25.4	-	9.0 (残存)	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	1mm以下の石灰少量 0.5mm以下の長石少量 外表面共に 赤色顔料	
第10回 21	III区	S 2	高环	26.0	-	6.2 (残存)	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR5/6)	明黄褐色 (10YR5/6)	2mm以下の石灰少量 2mm以下の長石少量 外表面共に 赤色顔料	
第10回 22	III区	S 2	高环	-	18.0	15.8 (残存)	ナデ	ナデ	にごく-黄褐色 (10YR7/4)	にごく-黄褐色 (10YR6/4)	1mm大の長石 1mm以下の角閃石少量 外表面共に 赤色顔料	
第11回 26	II区	S 4	直	34.8 (復元)	-	2.3	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-黄褐色 (10YR6/4)	2mm以下の石灰少量 4mm以下の長石少量	
第11回 27	II区	S 4	腰付跡	-	10.0	10.3 (残存)	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	1~2mm以下の石灰少量 1mm以下の長石や少量多量 細胞の角閃石少量	
第11回 28	II区	S 4	直	20.8 (復元)	-	6.1 (残存)	ナデ	ナデ	明黄褐色 (7.5YR5/6)	明黄褐色 (7.5YR5/6)	3mm以下の石灰多量 1mm以下の長石少量	
第11回 29	II区	S 4	直?	21.5 (復元)	-	6.7 (残存)	ナデ・ハケ後 ナデ	ナデ	にごく-黄褐色 (7.5YR6/6)	にごく-黄褐色 (10YR7/4)	1mm以下の石灰少量 2mm以下の長石や多量 0.5mm以下の角閃石少量	
第11回 30	II区	S 4	跡	15.9	8.7	7.8	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	1mm以下の石灰少量 1mm以下の長石少量 1mm以下の角閃石少量	
第11回 31	-	包合層	腰台	10.0 (復元)	11.0 (復元)	14.5	ナデ	ナデ 一部ナデ	褐色 (5YR6/6)	褐色 (5YR6/6)	2mm以下の石灰少量 3mm以下の長石少量 1mm以下の角閃石少量	
第11回 32	-	包合層	高环	-	-	9.5 (残存)	ナデ	不明	明黄褐色 (10YR7/6)	にごく-黄褐色 (10YR5/4)	1mm以下の石灰少量 2mm以下の長石少量 0.5mm以下の角閃石少量 外表面共に 赤色顔料	
第11回 33	-	包合層	高环	-	-	20.6 (復元)	4.2	ナデ	ナデ	明黄褐色 (10YR6/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	1mm以下の石灰少量 1.5mm以下の長石や多量

## III. 調査の記録

## IV. 総括

第2表 烏井原遺跡出土遺物観察表 [土製品]

調査番号	出土地点 調査区	種類	法量 (cm., g)				調整	色調	地土	構成	備考
			全長	幅	厚み	重量					
第11號 24	Ⅲ区 S 3	土師	3.1 (現存)	1.2 (最大)	-	4.33	ナデ	黄褐色 (7.5YR8/6)	1mm以下の粒石多量 0.5mm以下の角閃石少量	良	
第11號 34	-	灰青層 不明	7.0 (現存)	2.8~3.4	長軸2.9 短軸1.9	55.40	ナデ	褐色 (7.5YR8/8)	1~3mmの大粒砂利多量 角閃石少量	-	

第3表 烏井原遺跡出土遺物観察表 [石器]

調査番号	出土地点 調査区	種類	法量 (cm., g)				石材	色調	備考
			全長	幅	厚み	重量			
第11號 25	Ⅲ区 S 3	打製石器	2.5 (現存)	2.0 (板元)	0.5	-	1.62	黒曜石	乳白色 姫島産?

第4表 烏井原遺跡出土遺物観察表 [石製品]

調査番号	出土地点 調査区	種類	法量 (cm., g)				石材	色調	備考
			全長	幅	厚み	重量			
第11號 23	Ⅲ区 S 2	砾石	8.7 (現存)	3.7 (最大)	2.0	-	116.0	砂岩?	灰白色 (7.0YR8/1)

## IV. 総括

発掘調査の結果、弥生時代中期中葉から後葉にかけての竪穴建物跡群が確認できた。検出した遺構は、竪穴建物跡4棟、柱穴多数、柱穴から復元可能な掘立柱建物跡1棟である。遺物包含層および遺構埋土からは、弥生土器、石鎌、土師器片、須恵器片などコンテナ10箱分の遺物が出土している。以下、本発掘調査において確認された成果について時代順に記述する。

弥生時代の遺構からは、弥生時代中期中葉の黒髪式併行土器が出土しており、集落の形成時期も、これを上限と見て大過ないと思われる。従って、玉名台地上に形成される拠点的集落、高岡原遺跡に先行する集落であり、存続時期は、境川右岸の古闕遺跡とほぼ併行する。遺構内遺物の下限は弥生時代中期に收まり、後期以降の遺物が存在しないことから、中期後葉には集落の移動ないし、廃絶によって、その機能を失ったものとみられる。遺跡の機能停止時期と高岡原遺跡の出現時期の関係から、集落の中心が西へ移動し、より大規模な拠点的集落へと発展した可能性が考えられる。同時代の遺構としては、竪穴建物跡4棟が確認されたが、いずれも切合関係を持たず、遺物の時期からもほぼ同時期に存在したものともみられる。S2竪穴建物跡からは、住居内土坑が多数検出され、土坑内からは、赤彩された黒髪式土器の高环、壺、鉢が一括で出土しており、廃絶儀礼などの祭祀的意味合いが強い遺構とみられる。また、S3竪穴建物跡床面からは、乳白色を呈する大分県姫島産黒曜石を加工したと考えられる打製石鎌が出土している。同産地の黒曜石は、合志市竹迫字上遺跡（熊本県教育委員会2000）から多数出土が報告されており、素材剥片の搬入・流通が想定されている。玉名地域もこの流通網に関わっていたものと推測される。（玉名市内でも本例のほかに塚原遺跡において1点の出土がある。）

古代の遺構は、柱穴群とそれらから復元される掘立柱建物跡1棟である。出土遺物が僅少であったためその詳細な時期は不明であるが、前述の通り古代官道跡と並行するプランであることから、南北縦貫道が造成された際に、道路沿いに住居地が整備されたものとみられる。

中世以降は、遺物の出土量が著しく低下するため、明瞭な集落形成が行われなくなったとみられる。居住地以外の土地利用として、耕作地または空閑地になっていたと考えられるが、中世以降の遺物が少量ながら包含層および整地層に混入することから、近隣に居住域が存在した可能性は否定できない。



II区完掘状況（南東から）



IV区完掘状況（南東から）



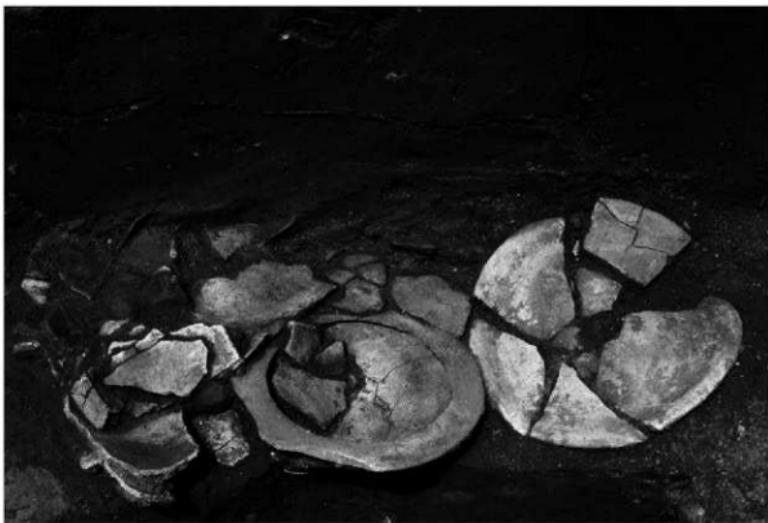
III区完掘状況（南東から）



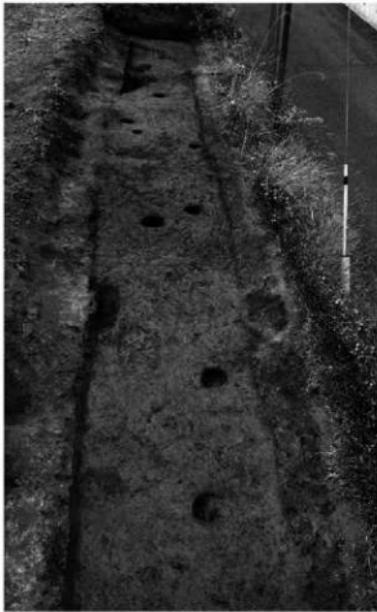
III区完掘状況（北から）



III区 S2 完掘状況（北東から）



III区 S2 一括遺物出土状況（東から）



V区完掘状況（南東から）



V区 S1 棟出状況（南東から）

図版 4



V区 S1 遺物出土状況（東から）



VI区 完掘状況（南東から）



VII区 S5 完掘状況（南東から）



S1 出土土器



S2 出土土器



S 2 出土土器 2



S 2 出土土器 3



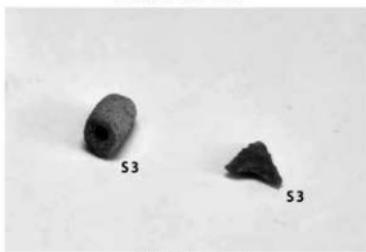
S4 出土土器



包含層出土土器



土器以外の出土遺物 1



土器以外の出土遺物 2

## 報告書抄録

ふりがな	とりいばるいせき						
書名	鳥井原遺跡						
副書名	玉名市立願寺字鳥井原における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査						
シリーズ名	玉名市文化財調査報告						
シリーズ番号	第49集						
編著者名	中村安宏(編) 田熊秀幸						
編集機関	玉名市教育委員会						
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138						
発行年月日	2021年3月12日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
鳥井原遺跡	43206	413	32° 56' 15"	130° 32' 58"	20190508 ~ 20190603	227	共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鳥井原遺跡	集落	弥生時代 古代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 柱穴	弥生土器 土製品 石器	弥生時代中期中葉から後葉の弥生土器(特に赤色顔料が施された高环)が出土		
要約	当遺跡は、繁根木川右岸の台地上に位置しており、周辺一帯は住宅化が進んでいる。共同住宅建設に伴い進入路部分を中心に行方不明調査を実施した結果、弥生時代中期の竪穴建物跡四棟および多数の柱穴が検出された。竪穴建物跡は円形に近く、一棟の建物跡内の土坑からは、土器が一括して廻り合わせられた状態で出土した。中には赤色顔料を施した高环が含まれていることなどから、祭祀的な遺構であった可能性がある。また、姫島産黒曜石製と考えられる石器が出土しており、遠隔地間における交流がうかがえる。						

玉名市文化財調査報告 第49集

## 鳥井原遺跡

—玉名市立願寺字鳥井原における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和3年3月5日 印刷

令和3年3月12日 発行

編集行 玉名市教育委員会  
 〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163  
 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138  
 印刷本 株式会社有明印刷  
 〒865-0022 熊本県玉名市寺田 123-1  
 TEL 0968-73-2055 FAX 0968-72-3504